テーマ①
住民の安全・安心な暮らしを支える庁舎の提案

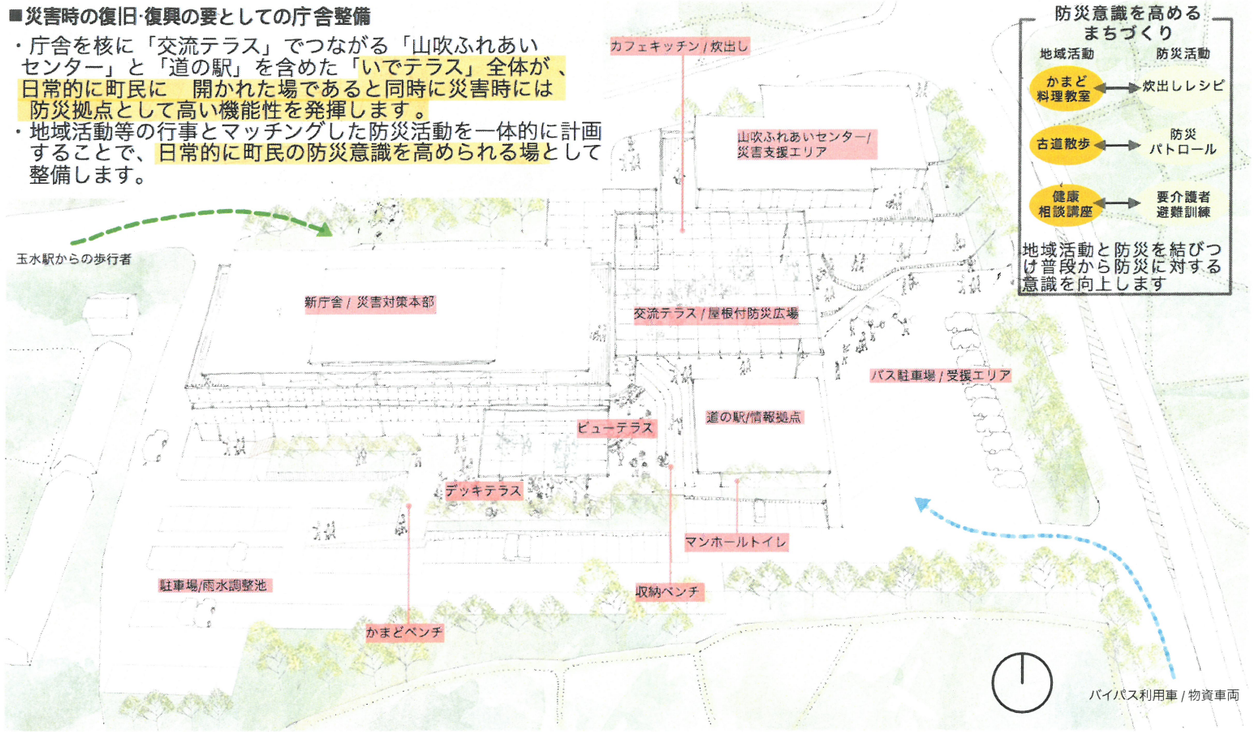
日常の開放性と防災拠点としての高い機能性を兼ね備え、町民の愛着を醸成する安全・安心な庁舎

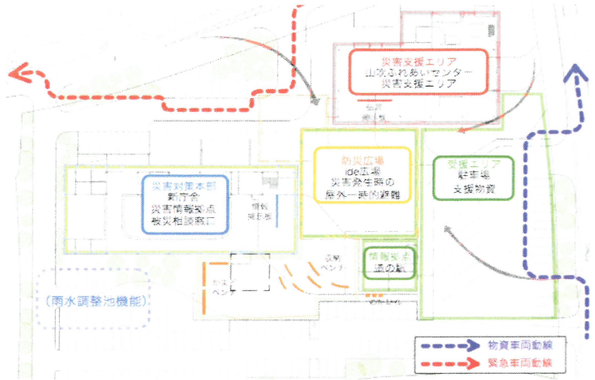
自然を守り活かす

「高い防災拠点機能を備えた安全・安心な庁舎」の実現に向けた設計の考え方

■災害時の復旧･復興の要としての庁舎整備

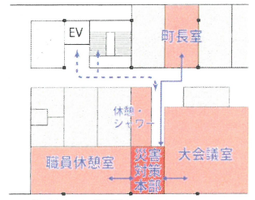
・庁舎を核に「交流テラス」でつながる「山吹ふれあいセンター」と「道の駅」を含めた「いでテラス」全体が、日常的に町民に　開かれた場であると同時に災害時には防災拠点として高い機能性を発揮します。
・地域活動等の行事とマッチングした防災活動を一体的に計画することで、日常的に町民の防災意識を高められる場として整備します。





■平時の機能が災害時にも活きる無駄のないBCP 庁舎

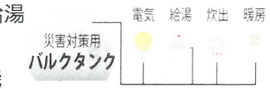
・災害対策本部室を2階に配置し町長室、大会議室を近接させ災害時の指揮中枢としての機能性を最大限確保します。また職員休憩室を隣接させ、対応にあたる職員の休息スペースとして利用します。
・万一の水害に備え、電気室・機械室及びサーバー室等は上階に計画し、機能継続性を確保します。



隣接した配置により、
連携利用と迅速な活動が可能

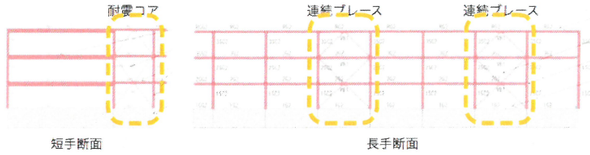
・災害対策本部室、サーバー室、電算室等の重要室は２階に集約し、床免震構造を検討します。

・災害対応型LPGバルクタンクを計画し、災害時の非常発電、給湯炊出しに使用します。
また災害対策本部室など災害時拠点諸室は停電時対応型GHP機器を採用した空調計画とします。



■耐震コアによるフレキシブル空間と安全性

短スパン部をブレースにより耐震コア化し 、剛性の高いフレキシブルな執務空間を実現します。桁方向にはバランス良くブレースを上下階に連続して 配置し、耐震性能を効率的に確保します。整形な平面計画、単純なスパン割とすることにより経済性を高めます。

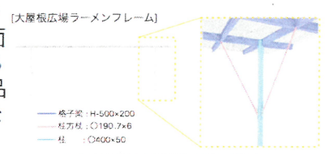


■地形に呼応した基礎計画

杭基礎形式で建物を確実に支持し 、棚田状の地形に対して不動沈下などの表層地盤のリスクを回避します。各部で適切な杭長の設定を細やかに行うことで経済性にも配慮します 。

■屋外での多様な活動を可能 にする交流テラスの大屋根

交流テラス大屋根はラーメンフレームを基本とし、屋根面の格子梁や柱方杖などによる補剛を効果的に行い、規格品鉄骨で経済的に大屋根空間を実現します。



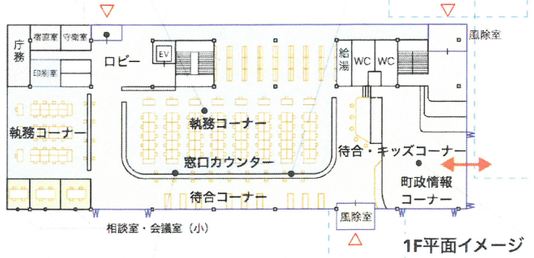
「誰もが利用しやすく、時代の変化に対応可能な柔軟性の高い庁舎」の実現に向けた設計の考え方

■ わかりやすい構成の開かれた庁舎

時間外・職員

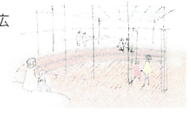
事務室は１階に集約し、職員の働く姿が一望できる執務空間でお互いの顔が見える計画とします。

部分的な開庁やイベントの開催に対応できるよう、１階カウンターに沿って管理区画を計画します。



1F平面イメージ

窓口を1Fにまとめ、見通しの良いカウンター配置とします。

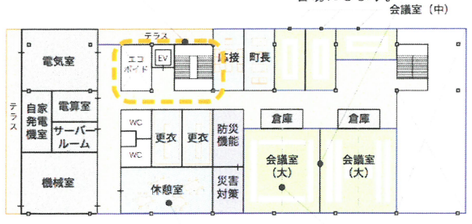


町政情報コーナーやキッズスペースを含むロビーは「交流広場」と連続した位置に設けイベント等で広場との一体利用が可能です。

■将来変化を見据えたフレキシビリティの高い庁舎

コアを平面端部に配置することで、まとまった執務空間を確保します。部局の変更や再編に柔軟に対応します。

鉄骨造のロングスパンの計画とすることで、部分的な無柱空間を実現し、将来的なレイアウト変更を容易にします。



2F平面イメージ

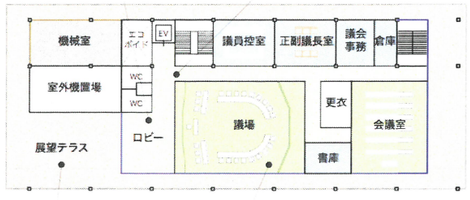
井手の美しい風景を眺める職員休憩室

中大会議室は2階に集約し庁内利用と町民との協働利用が可能です。

■開かれた議会機能と町民利用等の重ね使いを想定した柔軟な計画

議会開催がない時期にロビーや展望テラスとともに町民に開放します。

議会フロアにも町民利用可能なエリアを設定し、セキュリティを明確に区画します。



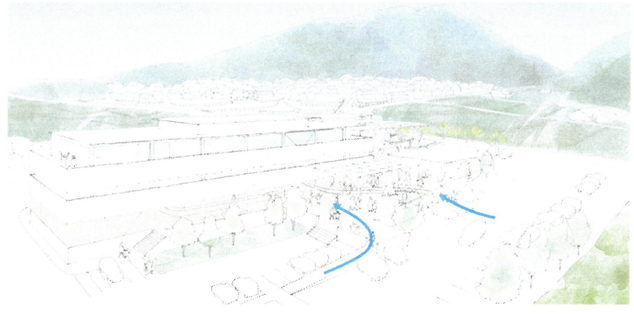
3F平面イメージ

井手町市街地を一望できる展望テラスを
町民エリアに設けます。

講演会や文化祭等イベントでも活用しやすい平土間形式
の議場も検討します。

■誰もが使いやすいユニバーサルデザインに配慮した庁舎

・子供からお年寄り、健常者や障がい者まで幅広く利用される庁舎は誰もが使いやすく 、親しみが感じられるデ ザインに配慮します。
・来庁者用駐車場は庁舎メイン入り口の近くに設け 、庁舎へのアクセスを容易にします。
・既存棚田の高低差を利用した「いでテラス」の各テラスは緩やかなスロープで連続させ、どこからでもアプローチしやすいよう配慮します。

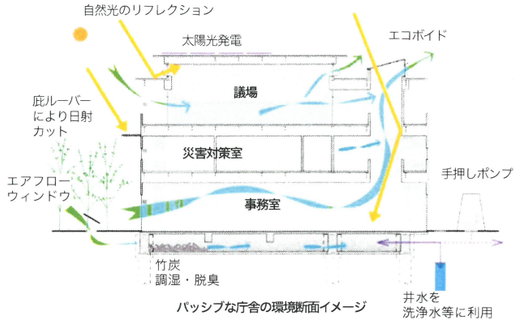


イニシャルコストを効果的に抑え、LCCに配慮したコスト計画

■井手の風土を最大限利用したパッシブな庁舎

・エコボイドや開口部のエアフローウインドウの採用により 、卓越風を自然通風として有効活用し 、快適な室内環境を生み出します。
・自然採光を取り入れ日中の照明負荷を軽減すると同時に 、外部に庇やルーバー等を計画し 、空調負荷を増大させる直達光はカットします。
・ピットをクールトレンチとして活用し 、外気負荷を低減して省エネルギーを図ります。ピットに地域特産の竹炭を敷設し調湿脱臭を図ると同時に 、災害時の燃料としても活用します 。

・井水の有効活用を検討します。平常時は植栽散水やトイレ洗浄水、夏期の建物冷却水として使用し、必要最低限のポンプ動力を太陽光発電でまかないます。また災害時はマンホールトイレの洗浄水として、動力を要しない手押しポンプでの活用を検討します。



パッシブな庁舎の環境断面イメージ

■維持管理の容易化、ランニングコストの低減を図ります

・高耐候、高耐久素材の採用や汎用性の高い設備機器を採用し維持管理の容易化とLCCの低減を図ります 。
・各種センサーによる空調 、照明制御や個別空調システム 、高効率機器の採用によりランニングコストを低減します 。

■現況の棚田地形を活かした造成計画と建築配置

・大規模な盛土を行わず、現況の棚田地形を有効に活かしながら建物や駐車場を配置することで、建物基礎の合理的計画の実現や盛土造成による危険性回避を図り 、造成工事費を縮減します。
・計画地の低いレベルに設けた駐車場では 、雨水流出抑制に必要な調整池機能を検討します。

概算工事費(税抜き)

事業予算全体でのコスト配分を検討し、各施設の実現を目指します。

建築工事費		
庁舎	約 3,500㎡	約14.87億円
ふれあいセンター	約 1,900㎡	約 8.55億円
道の駅	約　200㎡	約 0.76億円
	建築合計	約24.18億円
外構工事費		
外構	約10,500㎡	約 3.15億円
交流テラス大屋根	約1,100㎡	約 1.65億円
	外構合計	約4.80億円
	全体合計	約28.98億円